

わたしでも、消防団員になれます？



結婚後、鶴見に住んで3年目。お隣の奥さんに、消防団に誘われた。団員になったり、本業のかたわら、災害発生時に消火や避難誘導などをするらしい。興味はあるけれど、体力も時間もない私に務まるかな…？

消防団員に聞く



普段は週6日勤務
28年10月入団
北村 藍さん(29歳)
週5日都内で、週1日区内地域ケアプラザで勤務中。

●困っている人を助けたい
地域ケアプラザで働くうちに、手助けを必要としている人の多さに気がきました。自分が助けになる方法を考えた結果が消防団でした。子どもやお年寄りと一緒に声をかけ合える存在になりたかったんです。

●世代の違う友人を得た
入団後の訓練では、敬礼や歩き方なども学び、規律があるからこそ安全を任せられるのだな、と身の引き締まる思いでした。

●自分のペースで活動できる
入団後は月2~3回、分団の会合と消防団の広報部会に参加しています。会合後は団員のお宅にお邪魔したりと、世代の違う友人をたくさん得ることができました。地域の餅つきで警備を行った時も地域のつながりを強く感じました。

●地域の人を支える存在に
人のつながりを大切に、地域の人を支えられるようになりたいです。また、消防団はまだ男性主体なイメージがありますが、運動神経は良い方なので消火活動なども頑張りたいと思います。



入って、正直どうですか？

夫婦で入団！



28年7月入団
叶 兼穂さん(33歳)
詩織さん(35歳)
平日は2人とも会社員として都内で勤務。

●自分たちにはできないことはないか
東日本大震災の発生から、自分たちにはできないことはないか考えていました。今の家に引っ越してきて、隣人から消防団に誘われた時に、良いきっかけだと思い入団しました。

●自分のペースで活動できる
月4~5回、分団の活動や有志の自主訓練等に参加しています。消火器具の使い方など、学ぶことが多いですが、得た知識や技術は役立つものばかりです。放水時の水の重さにはびっくりしました。

●学んだことを実践につなげる
災害の発生時に、学んだことを実践し、身のまわりの人を助けられるようになりたいです。

定年退職後に入団

19年に61歳で入団
大場 豊比古さん(70歳)
第8分団班長を務め、3月末で消防団員としても定年を迎えた。

●最初は軽い気持ちから
義兄が所属していて、ずっと誘われていました。定年を迎え、断りきれなくなった61歳の時に入団しました。最初は軽い気持ちだったんです。

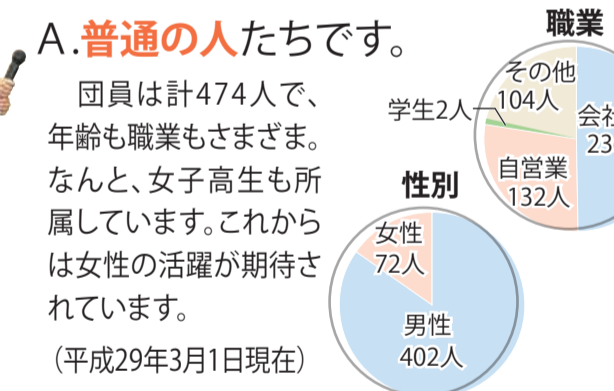
●消防と地域の橋渡しを
4月から自治会の防災部長に就任しました。消防団で得た経験と知識を地域の防災活動に生かし、消防と地域の橋渡しをしたいです。



消防署長に聞く

もう少し詳しく教えてください！

Q1 鶴見消防団員はどんな人たち？



Q2 消防署と消防団はどこがちがうの？

A. 消防団の**動員力と即応性が地域防災の中核**です。
災害が起こると消防署や消防団が出場して消火活動などを行います。通常の火災では消防署が活動の中心となり、消防団はその補完的な役割を果たします。しかし、東日本大震災などの大きな災害になると消防署だけでは人手が足りません。そこで、区内全域に居る、消防車やポンプを有する消防団の動員力が必要となるのです。その上消防団は、地域の状況に明るく、災害の即応性があるため、地域の防災力の中核として必要なのです。

Q3 どんな活動をするの？

A. 地域の「防災リーダー」として活躍しています。

災害発生時
火災のほか、地震や風水害など大規模災害発生時の救助活動、避難誘導、巡回警戒を行います。また、被災後の避難所運営も。災害発生時には、地元の地理や住民を知る消防団だからこそできる、素早くきめ細やかな対応が必要となります。なお、区内ではエリア毎に8分団に分かれており、原則居住(勤務・通学)エリアの分団に所属します。

訓練・機器点検
災害に備え、消防技術や機器の扱い方、救命法などの訓練を行います。定期的に資機材の点検も。
地域での防災指導
町内会や小中学校などで、防火や防災について指導を行い、地域の防災力を向上させます。



鶴見消防署長 齋藤 俊彦

そのほか、**出初式や区民まつりでの警備・誘導**なども行います。

消防団員募集中

必要なのは「やってみたい」という気持ち!!
自分たちでまちを守りませんか?

- 活動できる範囲でOK!
- 学生大歓迎
- まずは見学から
- 気軽にご連絡を

消防団員は、非常勤特別職の公務員です。普段は自分の仕事や学業をしながら、災害時はもちろん防災の啓発など、必要な時に活動しています。鶴見消防署では、随時団員を募集しています。少しでも興味があれば、お気軽にご連絡ください。

入団資格
区在住・在勤・在学の18歳~69歳(定年70歳)
報酬
年額報酬 34,000円(年間を通じて活動した場合支給)
出動報酬 災害出動 3,400円/1回
訓練防災指導等 2,400円/1回
※5年以上勤務した場合は退職報償金が支給されます
その他
被服(制服・活動服)貸与、公務災害補償制度あり
詳細は、HP 横浜市 消防団 検索 またはお問い合わせください



鶴見消防署消防団係 ☎ 503-0119

大雨洪水警報発表! その時消防団は?



大雨洪水警報発表基準
●雨量 1時間45mm
バケツをひっくり返したように降り、道路が川のような状態です。
●鶴見川水位※鶴見橋の場合(通常水位0m)
消(水)防団待機水位3.0m、避難判断水位4.0m
測定時の水位と降雨の見込みから、堤防の高さ(4.8m)を超える恐れがある場合等に洪水警報が発表されます。

大雨洪水警報発表 警報が発表されると、消防団幹部の連絡体制を確保し、消防署と情報の共有を図ります。

被害の拡大防止 浸水・滞水・がけ崩れなどの恐れがあると、消防団本部及び分団本部を設置し、一部団員は消防車などを保管している器具置場に集合します。消防署と協力して巡回警戒や地域へ注意喚起を行うほか、災害に備え、資機材の点検・準備も。

被害の発生 区役所からの避難指示等を地域へ伝達し、避難誘導、土のう積みや倒木の除去などの災害防除にあたります。

消防団本部長に聞く **大雨の被害を減らす方法**
鶴見消防団 清水 邦夫 本部長

1. ハザードマップで事前に備える
大雨の被害を減らし、身の安全を確保するためには、日頃の備えが大切です。家の周りの雨水ます・側溝の清掃や非常用持ち出し袋の準備等はもちろん、ハザードマップで大雨災害時に自宅がどのような環境になるか、その場合の避難場所・避難経路を必ず確認しましょう。

ハザードマップは、区役所防災担当(5階5番)で入手できるほか、WEBページでも閲覧できます。なお、洪水ハザードマップの最新版(29年版)は発行次第、浸水区域に全戸配布予定です。
HP 横浜 行政地図 検索
の4種類あります

2. 危険を感じたら避難勧告・指示前でも避難
大雨に見舞われ危険を感じたら、自主的に避難を開始してください。避難先は、指定された避難所のほか、ハザードマップに記された被害発生時の恐れがある区域外の知人宅、堅ろうな建物の2階以上なども有効です。
※夜間や危険が差し迫っているとき等、屋外への避難が危険な場合は、建物内2階以上(がけから離れた場所)で待避してください

大雨が降ってきたら
・道路が冠水し始めたら注意が必要です。地下街や半地下住宅からは移動し、地下状道路の通行は避けましょう
・家にあるもの(プランター、水を入れたごみ収集袋など)を使って浸水を防ぎましょう。逆流を防ぐため、排水口をふさぐのも忘れずに!

3. 被害にあったら可能な限り通報を
大雨災害で浸水などの被害を受けた場合は、鶴見消防署または区役所防災担当まで通報してください。安全が確保され、可能であれば写真等で記録も。通報することにより、被害があったことを証明する「罹災証明書」の発行がスムーズになります。
※罹災証明書は、ご加入の各種保険の請求に必要となります。また、区役所への提出により、見舞金の受取り・税金等の減免措置を受けられる場合があります

区役所防災担当 ☎ 510-1656 ☎ 510-1889